

# 一般廃棄物最終処分場整備基本計画概要版

## 基本計画策定の目的

一関地区広域行政組合（構成市町：一関市、平泉町）では、現在管理している最終処分場の舞川清掃センター、花泉清掃センター及び東山清掃センターの埋立容量が残り少なくなっていることから、新たな最終処分場の整備が必要である。

本計画は、新たな一般廃棄物最終処分場（以下「新最終処分場」という。）を整備するため、施設形式や施設規模、環境保全対策など基本的な事項について考え方をまとめたものである。

## 施設整備基本方針

次の4項目を新最終処分場整備基本方針とした。

- ① **安定性に優れた安全な施設**
  - ・ 信頼性の高い技術や工法を取り入れ、施設の運営及び維持管理において安定性に優れた安全な施設
  - ・ 耐久性に優れ、廃棄物を長期間にわたり安定的に処理できる施設
- ② **環境に配慮した施設**
  - ・ 環境負荷の低減と施設周辺の生活環境の保全に配慮した施設
  - ・ 廃棄物の処理や環境保全の啓発・学習にも活用できる施設
- ③ **災害に強い施設**
  - ・ 災害時でも稼働し、災害廃棄物も受け入れられる施設
- ④ **経済性に優れた施設**
  - ・ 建設から維持管理までの費用対効果の面で経済性に優れた施設

## 施設整備の基本的事項

### 1 埋立対象物

・ 焼却残渣    ・ 不燃残渣    ・ 不燃物

### 2 埋立期間及び埋立規模

全体埋立期間	25年	施設全体規模	126,800 m <sup>3</sup>
(内訳)			
第1期埋立期間	15年	埋立規模	80,600 m <sup>3</sup>
第2期埋立期間	10年	埋立規模	46,200 m <sup>3</sup>

### 3 建設候補地の位置

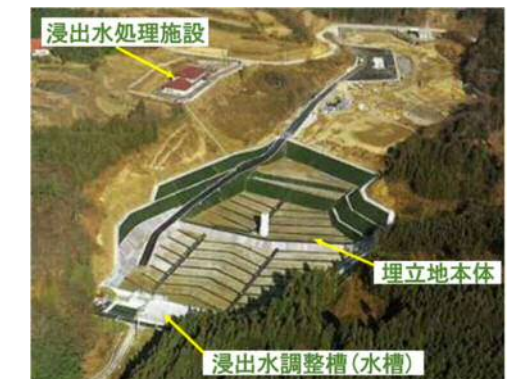
所在地 一関市千厩町千厩字北ノ沢ほか



### 4 施設形式

施設形式は、国内で導入実績がある「オープン型」と「クローズド型」の利点と課題を整理し、比較検討により「オープン型」とした。

- ※ 「オープン型」は、屋外開放型で屋根などがない形式。
- ※ 「クローズド型」は、屋外閉鎖型で埋立地を屋根などで覆う形式。

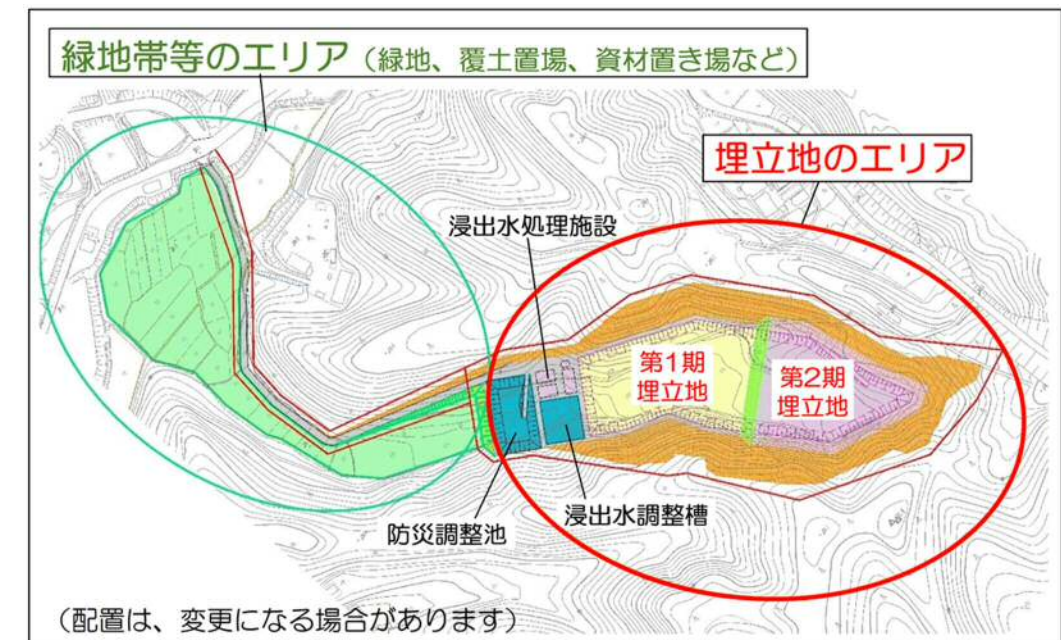


## 施設計画

### 1 施設配置計画

- ・ 整備する施設は、埋立地のほか、管理棟・計量棟、浸出水処理施設、浸出水調整槽、搬入路、防災調整池、緩衝緑地など。 ※ 浸出水は、埋立地に流入した雨などが埋立層を通して浸み出した水。
- ・ 埋立地は、第1期埋立地及び第2期埋立地の全体で126,800 m<sup>3</sup>の埋立容量を確保するものとして、安全性や動線効率、埋立作業性、経済性などを総合的に勘案して計画する。

図1 施設配置の例



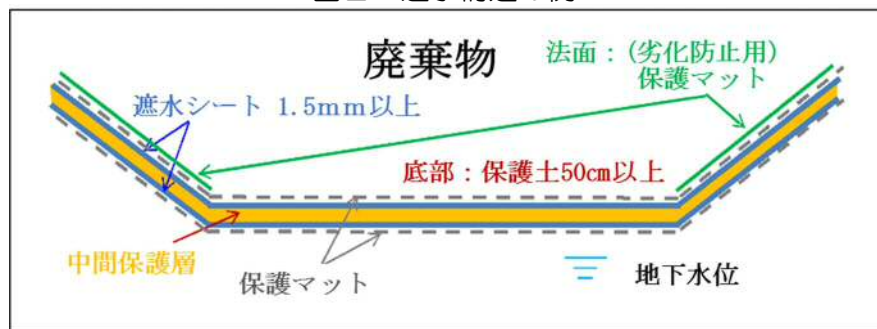
2 貯留構造物計画

貯留構造物は、建設候補地が沢地形であることから、埋立地のエリアの北西側に堰堤（堰き止めタイプ）を配置して締め切ることで廃棄物を貯留する。

3 遮水工計画

浸出水の流出防止を目的として、十分な強度、耐久性、確実な施工性、容易に破損しない「二重遮水シート」による遮水構造を採用。

図2 遮水構造の例



遮水シート写真



4 漏水検知システム

漏水検知システムは、万が一の遮水シートの破損に備え、常に漏水の有無をモニタリングするシステムであり、漏水箇所の特定精度が高い「電気式検知法」の採用を検討する。

5 浸出水処理施設と浸出水調整槽の規模

浸出水処理施設と浸出水調整槽の規模を設定するにあたり、

- 埋立地に雨水などの内部貯留が生じないこと。
- 過去30年間の降水量データなどを基に、水収支計算を行い、合理的な規模関係が得られるところで設定。

- 浸出水処理施設の規模 120 m<sup>3</sup>/日
- 浸出水調整槽の規模 3,329 m<sup>3</sup>以上

(最終的な規模は、基本設計において決定する。)

※ 浸出水処理施設は、埋立地からの浸出水の放流先の公共水域や地下水を汚染しないよう安全な水質に処理するための施設。

※ 浸出水調整槽は、埋立地からの浸出水を浸出水処理施設に定量的に送るために、浸出水を一旦溜めておく水槽。

6 計画放流水質

計画放流水質は、より安全・安心な施設とするため、技術的に可能であり合理的な範囲で法定の基準よりも厳しい独自の基準としている。

表1 計画放流水質

項目	計画放流水質
水素イオン濃度 (pH)	6.5~8.5
生物学的酸素要求量 (BOD) (mg/L)	10以下
化学的酸素要求量 (COD) (mg/L)	10以下
浮遊物質 (SS) (mg/L)	10以下
大腸菌群数 (個/cm <sup>3</sup> )	3,000以下
ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)	10以下
その他項目	基準省令以下

環境保全計画

環境保全計画では、周辺環境への影響を最小限にするため、必要な対策を講じる。

1 水質汚濁防止対策

- 水質管理は、現在の施設と同様に日常監視を行い、計画放流水質、基準省令に定められた水質検査（1回/月以上：pH、BOD、COD、SS、1回/年以上：排水基準に係る項目）を実施する。

2 騒音・振動対策

- 建設候補地は規制対象区域外であるが、生活環境影響調査の結果を踏まえ、対応を検討する。
- 浸出水処理施設の機械室は、防音材による対策を、使用重機は低騒音型を採用する。

3 臭気対策

- 臭気は、近年、有機物の埋立処分を行わなくなったことにより、問題が発生する事例は少ない。
- 即日覆土を励行して対策する。

4 飛散防止対策

- 近年、飛散しやすいビニール、プラスチック類をそのまま埋立てることがなくなり、問題が発生する事例は少ない。
- 埋立地の周辺にネットフェンスを設けるなどして対策する。

事業スケジュール

新最終処分場は、令和8年度中に供用開始する計画。

表2 事業スケジュール

項目	年度					
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
地形測量	■					
地質調査	■					
基本設計		■	■	■		
用地測量			■			
用地取得			■			
生活環境影響調査		■	■	■		
実施設計			■	■		
建設工事				■	■	■
供用開始						★

概算事業費と財源計画

新最終処分場建設費（第1期）は、同規模の整備実績などから次のとおり推定した。

新最終処分場建設費（第1期・推定）：3,697,000千円（消費税込み）

※ 建設費は、埋立地本体及び関連施設を見込む。

※ 財源は、循環型社会形成推進交付金、地方債、一般財源を見込む。

一関地区広域行政組合 〒021-8501 岩手県一関市竹山町7番2号  
 TEL：0191-21-2111 FAX：0191-31-3224  
<https://www.city.ichinoseki.iwate.jp/kouiki-gyousei/>